

美しい自然 歴史息づく ふるさと五十公野

～ 安心安全 笑顔で暮らす楽しい地域 ～



五十公野 御茶屋

五十公野地区福祉懇談会・五十公野区長会

新発田市・社会福祉法人新発田市社会福祉協議会

ご あ い さ つ

この度、新発田市と新発田市社会福祉協議会のご協力により、五十公野地区の「地区福祉活動計画」を策定させていただきました。

当地区は、新発田が誇る観光名所「五十公野公園あやめ園」と溝口秀勝公が築城と領内経営の構想を練った場所といわれる「五十公野御茶屋」、現存する知事公舎としては国内最古の「旧県知事公舎記念館」など自然と歴史が調和した地域です。

本計画の策定に当たり、福祉懇談会や編集委員会に各地区の区長や役員、地域組織など大勢の住民の皆様からご協力いただき、あらためて御礼申し上げます。

昨年の10月から福祉懇談会を3回実施し、グループ討議を中心に話し合いを重ねるごとに、愛する五十公野の将来は、やはり地域住民が主体となって考え、お互いに助け合える関係を築く事が大切であると感じております。

少子高齢化や人口減少、空き家の増加、担い手不足等の地域課題をあらためて認識し、五十公野地区のこれからの地域像を共有するなど地域としての連帯感も生まれました。

また、これらを共通の地域課題としてとらえ、地域で取り組むこと、一人ひとりが自ら取り組むこと、関係機関と連携して取り組むこと等、具体的な意見やアイデアを出すことができました。

この福祉活動計画を地域の皆様にご覧いただくとともに、これを機会に、より議論を深め、色々な意見を出し合い、実践につなげていければと願うところです。



平成 28 年 3 月

五十公野区長会 会長 仲川 重平

目 次

1	地域伝言板	
	(1)五十公野地区の特徴	1
	(2)五十公野地区の歴史・文化	2
2	計画の概要	
	(1)五十公野地区福祉活動計画とは	3
	(2)五十公野地区福祉活動計画の目的	3
	(3)五十公野地区福祉活動計画の推進に向けて	3
	(4)五十公野地区福祉活動計画づくりの意義	4
3	地域の魅力と現状	
	(1)地域の魅力について	5
	(2)地域の現状について	5
4	福祉活動計画	
	(1)基本理念(スローガン)	6
	(2)基本目標	6
	(3)計画の実現に向けて	7
5	策定方法	
	(1)五十公野地区福祉活動計画策定団体等	9
	(2)五十公野地区福祉活動計画策定経過	9
	(3)五十公野地区福祉懇談会で出された意見	10
6	参考資料	
	「新発田市地域福祉(活動)計画」の基本理念と体系	16
	五十公野地区福祉懇談会回覧	18



1 地域伝言板

あやめ咲き 歴史・文化 薫るまち



五十公野地区の主な農産物



米



たけのこ



さくらんぼ



いちじく

五十公野の由来

五十公野と書いて「いじみの」。地名の由来には諸説ある。古い時代に「イキミノ」「イキミネ」と呼ばれていた説。たくさんの峰があることから五十峰（いじみね）山と言われていた説。五条道兼が「当地を五条公野」と呼ぶよう遺言した説。五十公野山に伝説の鬼神、黒鳥兵衛の「井地峰城」があったという説。最後に、城主佐々木三郎の一族が五十公野を名乗っていた説。さて、本当のところはどうなのだろう？

資料：いじみの散策マップ

(1) 五十公野地区の特徴

■ 五十公野山を中心とする自然性の高い緑に囲まれている

五十公野山とその周辺は、人の手があまり入っていないため極めて自然性の高い緑を残しています。これらは地区内に広がる水田や河川とともに市民に憩いの場を提供しています。

■ 歴史的にゆかりのある建造物や史跡が豊富にある

地区内には「日本の歴史公園100選」にも選定された奉先堂公園（五十公野御茶屋）をはじめとした歴史的建造物や五十公野城跡などの史跡が数多くあり、歴史と自然が調和した街なみです。

■ 土地区画整理事業によって計画的に整備された住宅がある

新発田駅の東側から本地区にかけては年々市街化が進んでおり、市街地に近い新発田津川線沿いや奉先堂公園北側には土地区画整理事業により整備された良好な住宅地があります。

■ 県道沿いの商業地のほか、工業系の優良企業が立地している

新発田津川線沿いには幾つかの商店が立ち並び、工業系の企業も立地しています。



■ 五十公野公園あやめ園

日本四大あやめ園のひとつに位置付けられ、面積1.8ヘクタールの敷地に300品種60万本のあやめ(花菖蒲)が咲き揃います。



■ 主な公共施設

- ・五十公野公園・陸上競技場・野球場・テニスコート・ゲートボール場
- ・サイクリングロード・サンビレッジしばた・サンワークしばた など

(2) 五十公野地区の歴史・文化

歴史・文化は地域の宝・誇り・心のふるさと



五十公野の歴史年表 & 歴史あれこれ

資料：いじみの散策マップ

五十公野の歴史は古い。1500年も前に置かれた神社があるなど神社仏閣の多さは、この地が昔からあったことを伝えている。また、新発田の初代藩主、溝口秀勝が新発田に入って、まず腰を落着けたのも五十公野だ。五十公野は、新発田の「はじまり」が詰まっている。

729～749 (天平年間)	高僧行基が訪れ、いくつかの仏を刻んだ
1579 (天正7) 年頃	五十公野道如齋が五十公野城主となる
1587 (天正15) 年	五十公野城落城 城主五十公野道如齋夫妻が安楽寺で自害、5日後には新発田城も落城
1598 (慶長3) 年	溝口秀勝が入封し 五十公野熊ノ沢に仮住まいを構える
1610 (慶長15) 年	初代新発田藩主溝口秀勝63歳で没 遺骸は五十公野栃山で荼毘にふされた
1655 (明暦元) 年	3代藩主宣直が五十公野御茶屋を建築 4代藩主重雄が縣宋知に庭を造園させる
1814 (文化11) 年	10代藩主直諒が五十公野御茶屋を再建
1918 (大正7) 年	新発田城内より奉先堂が勝手山に移される

- 五十公野御茶屋
- 旧県知事公舎記念館 (日本で最も古い知事公舎)
- 芭蕉句碑 (千光寺境内)
- 杉原の杉並木
- 升湯 (お櫛伝説)
- 藩校「同学堂」の扁額 (豊田神社蔵) 寛政9年(1787)、8代藩主直養筆
- 安楽寺・圓山寺・光源寺・高德寺・浄念寺・瑞光寺・清源寺・千光寺・大仙寺・如意寺・白蓮寺・薬師寺・来迎寺・龍昌寺
- 石井神社・古四王神社・豊田神社など

まだまだたくさんあります。
地元の歴史探訪、宝物さがしをしませんか

～五十公野山とは～

五十公野にある山々の総称。高さ80m前後の山がたくさんあり、遠目に見れば、ゆるやかな峰が連なっている。数えれば50ほども峰があろう…と「五十峰山(いじみねやま)」の漢字が当てられたのが由来とか。

金谷山 焼山 白山 猫山 観音裏山 山の上 大沢山 用無山 岩井戸山 東阪山 鷯山 赤坂山 平山 向山 御城山

～五十公野八景～

資料：ふるさと五十公野 郷土の友

江戸時代末の地理学者である小泉蒼軒が弘化3年(1846)に書いた丙午随筆に、五十公野八景の二つの説を紹介している。

一説 ① 山王の夜雨 ② 弁天の夕照 ③ 愛宕の暮雪 ④ 磐井堂の秋月 ⑤ 新保の帰帆
⑥ 古四王の晴嵐 ⑦ 円山寺の晩鐘 ⑧ 松瀨の落雁

二説 ① 山王の夜雨 ② 公耒橋夕照 ③ 二王子岳の暮雪 ④ 磐井堂の秋月 ⑤ 新保の帰帆
⑥ 鷹侍場の晴嵐 ⑦ 円山寺の晩鐘 ⑧ 松瀨の落雁



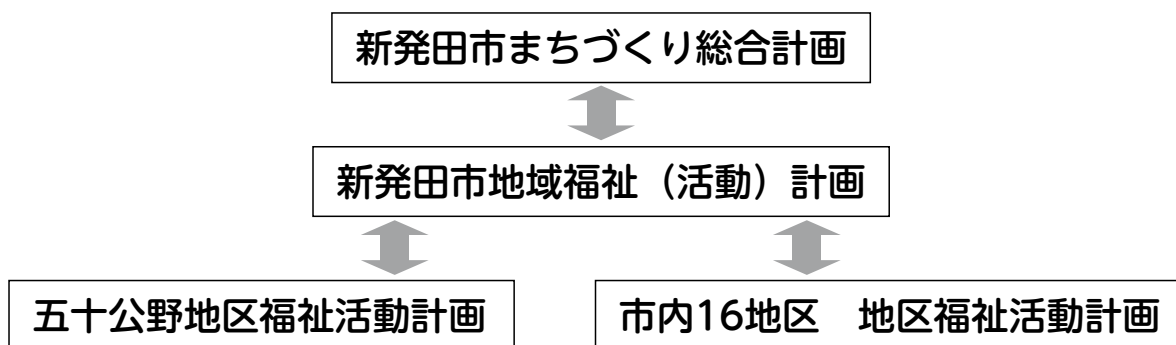
2 計画の概要

(1) 五十公野地区福祉活動計画とは

少子高齢化社会を迎え、社会全般が大きく変化している中、行政への市民要望は年々増大していますが、一人ひとりに適したきめ細かなサービスを行政だけの力で提供することは困難になっています。このため、市民が自立した生活をめざし、地域での福祉を「支え合い」によるシステムという新たな視点で再構築し、維持していく仕組みをつくりあげることが重要となっています。

新発田市は「まちづくり総合計画」の中で、目指すべき将来都市像を「住みよいまち日本一 健康田園文化都市・しばた」としています。その基本理念の下に、新発田市地域福祉(活動)計画は、「しばたに住んで良かった。」と市民が言えるよう、地域において市民や福祉関係者、社会福祉協議会、行政、関係機関が相互に知恵を出し、力を合わせながら、高齢者や障がい者など支援が必要な市民が地域で安心して生活を送ることができる“共生社会”の実現を目指しています。

「五十公野地区福祉活動計画」は、地域の中で問題となっていること、困っていることなどを「地域みんなの問題」として捉え、話し合い、取り組んでいくための指針であり、「新発田市まちづくり総合計画」、「新発田市地域福祉(活動)計画」に基づいた計画です。



(順次策定しています。)

※地域福祉とは、「適切な地域を単位として」「地域住民が主体となり」「地域課題の解決に向けて」「自治会と行政なども含め」「お互いに知恵を出し合い」「支え合っていく」ことです。

(2) 五十公野地区福祉活動計画の目的

五十公野地区に対する想いを語り合うことを通して、「地域の現状や課題」、「地域でできること」、「自分でできること」、「こうなったらいい」などを一緒に考え住民主体の地域福祉づくりを市民や福祉関係者、社会福祉協議会、行政、関係機関などと連携して進めていきます。高齢者や障がい者など支援の必要な市民が地域(五十公野地区)で安心して生活できる“共生社会”の実現をみんなで目指します。

(3) 五十公野地区福祉活動計画の推進に向けて

計画づくりの過程を通じ、みんなで同じ方向を向いて協働していくために、地域の課題や目標を共有しましょう。その上で、五十公野地区の中長期的な目標として位置づけ、市民や福祉関係者、社会福祉協議会、行政、関係機関などが連携して取組を進めていくことが重要です。

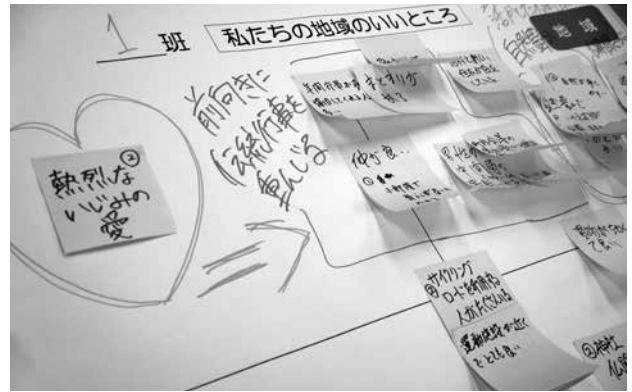


(4) 五十公野地区福祉活動計画づくりの意義

五十公野地区福祉活動計画を地域みんなで作ることで

- ① 地域の課題や目標を関係者で共有し、同じ方向を向いて**協働**することができる。
- ② 計画を公表することで、地域の福祉活動について、広く地域住民の**理解**と**協力**が得られる。
- ③ 中長期的な見通しを持って、**段階的・継続的**に取り組んでいくことができる。
- ④ 活動の**優先順位**や**重点**がはっきりする。
- ⑤ 活動がうまく展開されてきたか振り返り、次の**課題**を明らかにすることができる。
- ⑥ 計画づくりの過程で人が育ち、地域の関係者の**連帯**も強くなる。

みんなで作る五十公野地区福祉活動計画





3 地域の魅力と現状

五十公野地区福祉懇談会で見えてきた地域の魅力と現状

五十公野地区に住んでいる子どもから高齢者まで、すべての住民が地域においていきいきとした生活を送ることは五十公野地区住民のみんなの願いです。

この願いの実現に向けて、市民や福祉関係者、社会福祉協議会、行政、関係機関などが協働しながら、みんなで五十公野地区福祉活動計画を策定しました。

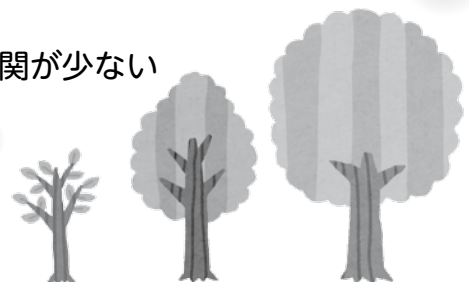
計画策定の具体的作業として、平成27年10月～平成27年12月まで3回にわたり福祉懇談会を開催し、地域の現状や福祉に関わる様々な課題について、話し合いをまとめました。

(1) 地域の魅力について

- ① つながりについて
 - ・まとまりがある
 - ・隣近所の付き合いがある
 - ・お互いに顔がわかりコミュニケーションが良い
 - ・お互いに挨拶等の声かけができる
- ② 地域活動について
 - ・町内活動が活発である
 - ・避難訓練など防災に取り組んでいる
- ③ 社会資源について
 - ・文化遺産がある
 - ・就労の場がある
 - ・五十公野山や五十公野公園がある
 - ・スポーツ施設などが充実している
- ④ 地域性について
 - ・災害が少ない
 - ・自然が多く過ごしやすい
 - ・いじみの愛がある
 - ・おだやかで優しい人が多い
 - ・子ども達が元気で活発である

(2) 地域の現状について

- ① つながりについて
 - ・つながりの希薄化が進んでいる
 - ・町内会活動に関心が薄い
- ② 地域について
 - ・マナーの悪い人がいる
 - ・子どもや若者が少ない
 - ・高齢化が進んでいる
 - ・空き家が増えている
- ③ 生活について
 - ・地域によって除雪作業が負担である
 - ・公的交通機関が少ない





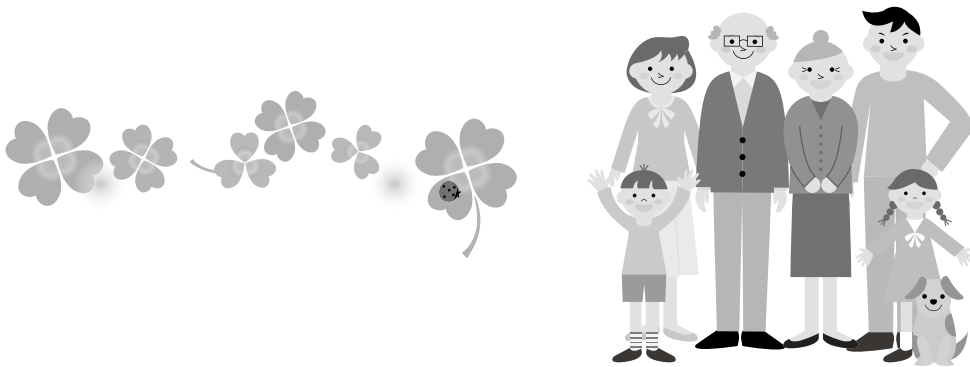
4 福祉活動計画

五十公野地区福祉活動計画

(1) 基本理念(スローガン)

五十公野地区に住む住民一人ひとりが地域活動に積極的に関わり、お互いを個人として尊重しあい、生きがいや充実感をもちながらその人らしい生活ができることを目指していくことが大切です。こうしたことから次のとおり計画の基本理念を定めました。

**美しい自然 歴史息づく
ふるさと五十公野**
～安心安全 笑顔で暮らす楽しい地域～



(2) 基本目標

福祉懇談会で話し合われた地域の現状や福祉課題に基づき、計画の基本目標を次のとおりとしました。

基本目標 1	声かけ合う 小さなおせっかい
基本目標 2	ふるさとの歴史に興味を持ち伝えよう
基本目標 3	世代を超えてつながる楽しい地域づくり
基本目標 4	自慢できる自然と笑顔の老若男女



(3) 計画の実現に向けて

目標達成の具体的な取組の例 → 福祉懇談会では
自分達でどんなことができるのか
アイデアを出し合いました。



- ◆基本目標 = こんな地域であつたらいいな
- ◆実施項目 = 私たちにできること(取組の例)

基本目標1 声かけ合う 小さなおせっかい

目 標		実施項目(取組の例)
1	関心を持っておせっかい 安心安全な地域	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ・声かけ運動の実施 ・近所づきあいを大切にする ・自主防災組織を作り、各自が自覚して協力する ・子ども達や高齢者の声が聞こえる見守り隊をつくる ・地域パトロールの実施(火の用心など)

基本目標2 ふるさとの歴史に興味を持ち伝えよう

目 標		実施項目(取組の例)
1	歴史を守る 伝える 広める	<ul style="list-style-type: none"> ・お寺、神社歴史巡りなどのイベントを開催する ・五十公野の歴史を語ろう会 ・ウォーキングやサイクリングで歴史探索 ・お寺で講演会を開催する ・施設を活用する



外城神社 子供神輿



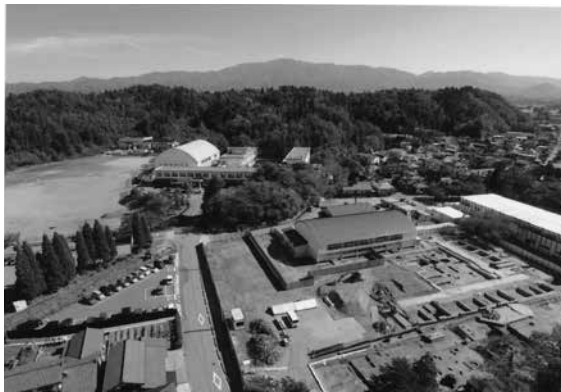
補陀落山 千光寺

基本目標3 世代を超えてつながる楽しい地域づくり

目 標		実施項目(取組の例)
1	世代を超えてつながる和と輪	<ul style="list-style-type: none"> ・今ある資源をもっと活用し、紹介する(散策マップ、施設など) ・世代間交流の活性化を図る(きっかけづくり) ・みんなで紙芝居作り、つながりの輪を広げる ・身近な所に子育て支援センターをつくる ・コミュニティセンターや区長会がサポートをしてイベントを開催する ・声かけを行いコミュニケーションを図る ・子どもの見守りをする ・ワンワンパトロールを実施し、子どもに声かけをする ・地域に関心を持って行事に積極的に参加する ・行政、社協とコミュニケーションを取っていく
2	みんなで楽しい地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントなどへの参加の声かけをする(行こうぜ、行こうぜ運動) ・子どもに負けない積極的なあいさつをする ・みんなで楽しめる餅つきなどのレクリエーションをする ・学校との連携を図る

基本目標4 自慢できる自然と笑顔の老若男女

目 標		実施項目(取組の例)
1	元気な子どもとお年寄りを増やす	<ul style="list-style-type: none"> ・紙芝居などを使って集会に参加できない高齢者宅を訪問する ・高齢者を子育て支援に活かす(地域の中の子育て所) ・介護予防教室の定期開催を地域単位で行う
2	地域のためになろう	<ul style="list-style-type: none"> ・ご近所の見守り、声かけをする ・地域の美化運動 ・地域パトロールをする ・ボランティア活動の実施



五十公野館跡 発掘調査



五十公野小学校 運動会



5 策定方法

(1) 五十公野地区福祉活動計画策定団体等

五十公野地区福祉活動計画は、五十公野区長会を中心に自治会・町内会の代表者、民生委員児童委員・主任児童委員、保健自治会、子供会、市議会議員、五十公野小学校PTA、新発田南地域包括支援センターなどの人達が福祉懇談会を開催し、地域の現状及び課題を把握して、基本目標、具体的な取組事例として策定しました。

■五十公野地区 自治会・町内会

1	江口
2	上内竹自治会
3	下内竹
4	丑首自治会
5	天の原自治会
6	山崎町内会
7	古寺
8	上新保自治会

9	下新保自治会
10	金谷自治会
11	古町町内会
12	七軒町
13	山王
14	五十公野外城区会
15	橋本
16	小路区

17	上町区自治会
18	豊田団地自治会
19	下町区
20	杉原町内会
21	いわい団地町内会
22	山崎団地町内会
23	杉西手

- 五十公野区長会
- 自治会・町内会の代表者
- 民生委員児童委員
- 主任児童委員
- 保健自治会
- 子供会
- 市議会議員
- 五十公野小学校PTA
- 新発田南地域包括支援センター
(五十公野地区担当)

(2) 五十公野地区福祉活動計画策定経過

年月日	会議等	内容
平成27年8月6日	打合せ (五十公野コミュニティセンター)	・地域福祉懇談会について 五十公野区長会役員と事前打合せ (参加者9名)
平成27年8月9日	五十公野区長会 (五十公野コミュニティセンター)	・五十公野地区福祉活動計画について説明 (参加者25名)
平成27年9月1日	第1回 五十公野地区福祉懇談会開催案内 回覧	
平成27年10月8日	第1回五十公野地区福祉懇談会 (老人福祉センター金蘭荘)	・「五十公野地区福祉活動計画」勉強会 ・グループワーク1 ①私たちの地域のいいところ ②身近なところで困っていること ③こんな地域であつたらいいな ④私たちにできること ・グループ発表 (参加者73名)
平成27年11月2日	第1回 五十公野地区福祉懇談会 実施報告 回覧	
平成27年11月12日	第2回五十公野地区福祉懇談会 (老人福祉センター金蘭荘)	・グループワーク2 前回の振り返り及びまとめ 地区の現状と課題の整理 計画の基本目標の検討 ・グループ発表 (参加者67名)
平成27年12月1日	第2回 五十公野地区福祉懇談会 実施報告 回覧	
平成27年12月10日	第3回五十公野地区福祉懇談会 (老人福祉センター金蘭荘)	・グループワーク3 前回の振り返り及びまとめ 基本目標の検討 スローガンの検討 ・グループ発表 (参加者63名)
平成28年1月5日	第3回 五十公野地区福祉懇談会 実施報告 回覧	
平成28年1月14日	第1回編集委員会 (五十公野コミュニティセンター)	・五十公野地区福祉活動計画の基本理念、基本目標 などの検討 (参加者14名)
平成28年2月16日	第2回編集委員会 (五十公野コミュニティセンター)	・五十公野地区福祉活動計画の目標に向けた実施項目 などの検討 (参加者17名)
平成28年3月24日	第3回編集委員会 (五十公野コミュニティセンター)	・五十公野地区福祉活動計画(案)修正・確認等 (参加者15名)
平成28年3月	・五十公野地区福祉活動計画完成	



(3) 五十公野地区福祉懇談会で出された意見

グループに分かれて、地域の現状や課題を共有し、地域の皆さんで支え合いの知恵を出し合いました。懇談会で皆さんが話し合われた意見をご紹介します。（グループごとに掲載しています）

1 私たちの地域のいいところ

- ・生まれて災害にあっていない
- ・元気の良いお年寄りが多い
- ・毎年避難訓練をし非常食を提供している
- ・自然環境が良い
- ・静かである
- ・のどかで良い
- ・自然が多く過ごしやすい
- ・自然豊かで鳥のさえずりが聞こえる
- ・散策コースに恵まれている
- ・遊歩道はとても良い
- ・公園などが近く自然に恵まれている
- ・五十公野山がすごく良い
- ・五十公野公園がある
- ・五十公野山を散歩するのに良い
- ・運動施設がたくさんある
- ・運動施設が近くでとても良い
- ・五十公野公園のスポーツ施設がある
- ・小、中学校が近く各種施設があり環境が良い
- ・買物をする場所が近くで良い
- ・年間行事が多いが協力してくれる人達も多い
- ・まとまりがある
- ・協調性があり祭りや集落行事に参加している
- ・町内で男性中間層(40~60歳)の寄合いがある(年4,5回)
- ・町内会等の参加率が比較的良好(60~70%)
- ・新旧の住民のバランスが良い
- ・互いに顔が分かりコミュニケーションが良い
- ・仲が良い
- ・小集落で気心が互いにわかる
- ・サイクリングロードを利用する人がたくさんいる
- ・神社仏閣が多い
- ・熱烈ないじみの愛
- ・おだやかで優しい人が多い
- ・団地では若い世帯が増えたので子どもの数も増えた
- ・集団登校がとっても微笑ましい
- ・小学校へ地域毎に集団登校が行われている
- ・学校が近いです
- ・学校(保育園)が近くて便利
- ・生活面に便利です
- ・スポーツ施設が集中している
- ・史跡が多く、歴史のある地域である
- ・回覧板を回したり隣近所の付き合いがしっかりしており安否確認、集落機能があります
- ・集落機能が比較的しっかりしていること
- ・団結力のある地域
- ・40~70歳代の20人で2ヶ月に1回、飲コミュニケーションを開催している
- ・子ども達が元気で活発だと思ふ
- ・子どものあいさつが良い
- ・高齢者、若い人が平均している
- ・山がきれいに見える
- ・緑が豊かで住みやすい
- ・自然が豊かで静かです
- ・自然を近くで体感できる
- ・騒音が少なく静かである
- ・学校が年上の子と年下の子の交流のたてわり班である
- ・集落センターを使って良く集まっている
- ・老人クラブ活動が活発!!
- ・あやめ園がある
- ・駅が近い
- ・市街地に近くて良い
- ・買物が便利である



千光寺 御開帳



旧県知事公舎記念館

- ・自転車を活用できる
- ・スポーツ施設がある
- ・顔が会えばいつもあいさつがある
- ・町内会のまとまりの良さ
- ・子ども達が元気にあいさつできる
- ・歴史のある地域
- ・お寺が多い
- ・各地区に古くからの祭りがある
- ・公園、公共施設が近い
- ・遊歩道に近くウォーキングに良い
- ・大きな公園がある
- ・近くに公園がある
- ・地区に学校、公園がある
- ・自然が多い
- ・自然が身近にある
- ・自然がある
- ・水がおいしい
- ・夜は静かで星空がきれいに見える！！
- ・子どもが元気である
- ・元気の良い女性が多い
- ・女性が元気で賢い
- ・良いことを受け入れる気風
- ・住民同士が互いを知っている
- ・コミュニケーションを図る行事が多い
- ・昔から自治組織がしっかりしているイメージ
- ・地域のつながりの再構築の動き
- ・ごみステーションがきれい（責任ある当番制）
- ・1年通して行事が計画されていてコミュニケーションを図る機会が多い
- ・祭りを通じて先輩後輩のつながりが強い
- ・町内行事が多く積極的に参加している
- ・町内活動が活発である
- ・誰でもあいさつをする
- ・あいさつをする
- ・地域のまとまりが良い
- ・野菜のおすそ分け文化が残っている
- ・お隣さんとおかずの交換をしている
- ・サッカークラブOBが、指導者・コーチになっている
- ・老夫婦に電話番号を教えている
- ・地区のいろいろな話題を届けてくれる人がいる
- ・明るい、理屈を言わない、許しあう地域
- ・町内がきれい
- ・果物がいっぱい
- ・文化遺産が多い
- ・運動できる環境がある
- ・市街地に近い
- ・就労の場（食品工場等）がある
- ・山紫水明
- ・清流にのみ生息するバイカモが用水路で見られ自然豊かな地
- ・地域の神社を保存、守っている
- ・五十公野山がある
- ・歩く場所がたくさんある
- ・町内花見・餅つき大会・芋煮会等の集まりがある
- ・地区内に組を作っており、組長が組ごとに回っているので地区内の様子はだいたい分かる
- ・若い人の世帯が多く、若い町内だと思える
- ・お互いにあいさつ等の声かけができる地域
- ・町内に住んで35年、はじめの頃は子どももいたが高齢化が進んだ（まとまりが良い）
- ・公共施設（公園やグラウンド等）があり非常に良い
- ・隣同士で気軽に話し合える
- ・少数集落なので、お互い顔馴染みが多く情報が入りやすい
- ・果物がおいしい
- ・災害の時、避難する学校が近い



五十公野公園 あやめ園



2 身近なところで困っていること

- ・交通量が多くなってきて困る
- ・共助とプライバシーのバランスが難しい
- ・共同住宅の人達と交わりがない
- ・空き地の草刈り
- ・作物が人に盗まれて困る
- ・冬の除雪が困る
- ・団地内に空き地がなくなり、除雪の雪のやり場がない
- ・除草剤の管理、犬が体調をこわす
- ・除草された草が近所に飛ぶ
- ・公園の除草作業が年々重労働になっている
- ・加治川沿いの草木が生い茂って困っている
- ・野良猫が多くて困る
- ・ごみ捨てのマナーの悪い人がある（県道で町外の人）
- ・子どもの声が少なくなった
- ・子どもが少ない
- ・子どもが少なく1、2年生が1人で歩いて通学している
- ・子ども会が成り立たない
- ・用水路にガードレールがなくて危ない
- ・共同施設の老朽化
- ・行事を計画しても参加者が少ない、参加すると喜ぶ
- ・行事の不参加者が固定化している
- ・引きこもりの方がいて困っている
- ・総会等の出席率が低い
- ・町内の役員の担い手が少ない
- ・高齢者だけの世帯が多い
- ・一人暮らしの人が多くなってきている
- ・高齢化が進んでいる
- ・未婚者が多い
- ・路線バスはあるがコミュニティバスもあればいい
- ・新、旧地区が県道で分かれている気がする



- ・地域に老人施設がない
- ・学校まで遠い（昔は靴代があったくらい）
- ・食品工場の匂いなどの環境問題
- ・若者が郊外へ行って、お年寄りが多くなった
- ・アパートの協力体制がない為、空き家の管理が必要である
- ・下水道の加入者が少ない
- ・年代により地域の行事に無関心である（特に若い人）
- ・回覧板を回さないでと言う人がいて残念である
- ・コミュニケーションの欠如
- ・隣人同士のトラブル
- ・アパートに住んでいる方の顔が見えない
- ・新しい団地なので人間関係がやや希薄な気がする
- ・除雪後の雪のやり場がない
- ・空き家が増えた
- ・サイクリングロードにある犬のフンを片付けられない人がいる
- ・家の近くで火たきがあり煙害である
- ・近くに子どもが少なく登下校がかわいそう
- ・家庭中心で外部との接点がない
- ・新興住民が自治会総会に出席しないこと
- ・公会堂がない
- ・町内のコミュニティや家族同士の付き合いが少ない
- ・歩行者用の信号がない
- ・車の交通量が多い
- ・細い道路でスピードの出し過ぎ
- ・あいさつがない
- ・集落の集会等の出席者が少ない
- ・農業中心で農家のわがままがある
- ・交通の便が悪い（バス路線の本数が少ない）
- ・高齢者の外出時における交通の便の悪さ





- ・若い人がいない
- ・高齢者人口40%、一人若者が多い
- ・高齢者世帯が多い
- ・アパートの人の出入りが多い
- ・公園に子どもが遊んでいない
- ・今後、限界集落になる可能性がある
- ・地域の行事に出る人はいつも同じ人
- ・身勝手な人がいる
- ・中学生に悪い行動を注意しにくい（仕返しがある）
- ・野菜を作っても食べてくれない
- ・地域の嫁を知らない
- ・除雪が下手で、その後の処理に時間を取られる
- ・毎年冬、雪で用水路があふれる
- ・雪が多く除雪が大変である
- ・自治会活動に関心が薄い
- ・猫が増えて困っている
- ・町内役員のなり手がいない
- ・引きこもりの人に相談を受けている
- ・全般に他人の世話になりたくない、我は我という意志が強い
- ・集落内で〇〇会の消滅
- ・公的交通機関が少ない
- ・少子化でサッカークラブのメンバーを市内全域より募集しなければならない
- ・誰の意見も自分の人生観で処理し町内会の世話にならない→よって協力しない
- ・空き家が多くなってきている
- ・空き家が増えてくること
- ・価値観の違いから知らぬふりをしている
- ・屋根付運動施設が少ない為、雨天や冬場に練習ができない
- ・地域のグラウンドに雨が降ると2～3日使用ができない
- ・町内行事の参加者が少ない
- ・障がい者として災害時が不安である
- ・新興住宅地なので隣同士の付き合いが少ない
- ・高齢者のみの世帯がある
- ・一人世帯が多くなってきている
- ・新しく地域に家を建てた方が地域の行事に参加しない
- ・用水路に同じ空き缶が常に捨てられている
- ・ごみステーションへの出し方が悪い(ルールを守らない)
- ・旧町内と新しい団地の人達の話し合いがない
- ・空き家が増えており、風による破損や草木の管理等に問題が出る
- ・若い人が独立している為、高齢者二人暮らしが増えてきた
- ・道路脇の草が伸び放題で困っている
- ・花見会、避難訓練等の行事に若い人達が無関心“なんとかしなければ！”
- ・寄付をしない方が少し多い気がする
- ・戸数が減り人も少なくなりつつあり、若い人がいなくなり高齢者だけが残る
- ・新旧地区とのつながり
- ・集まる場所はあるが知らない、また交通手段がない





3 こんな地域であつたらいいな

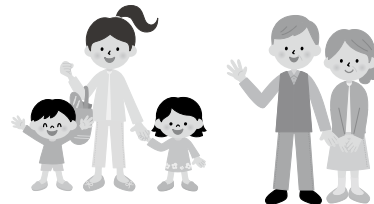
- ・親子二世帯同居家族が増えたらいいな
- ・みんなであいさつ運動
- ・いつまでも健康に気をつけ長生きできる地区
- ・地域にコミュニティバスサービスがあればいい
- ・都会へ出ていく人が多いので若い人の勤める場所が増えると良い
- ・みんなで集まり、おしゃべり等ができる地域のお茶の間サロンがあると良い
- ・子ども、若い人、高齢者が一緒に楽しめるレクリエーションがあると良い
- ・ごみステーションの増加
- ・子ども達がいつでも遊べる場があれば
- ・子ども達が安心して遊べる公園があつたらいい
- ・公会堂をもっと使って欲しい
- ・用水路にガードレールがあつたらいい
- ・子どもが増えたらいいな
- ・子ども達の声が聞こえるといいな
- ・子どもの行事に参加するなど親の気持ちの変化（地域への関心）
- ・子どもが遊ぶのに集まるといい
- ・子どもや大人も大勢いて昔のように、にぎやかな地域であつたらいいな～
- ・大型商業施設への道路整備
- ・県立病院の他にもう一つ大きな病院が欲しい
- ・消雪装置があるといい
- ・デマンドタクシーの利用ができるようになって欲しい
- ・バス（スクールバス）があるといい
- ・地域にもっと関心を持ってもらいたい
- ・老若共に話し合う機会を多く持ちたい
- ・イベントの開催をたくさんできる地域
- ・地域にNGT48やサッカー等のイベントで人を呼ぶ
- ・地域の空き家を利用して小さい集まりができるような場所を作って欲しい
- ・地域に自由に集える場所があつたら（コーヒーの提供）
- ・楽しい近所付き合い
- ・みんなで仲良く声をかけあう
- ・暴力事件などがない安心した地域
- ・交通災害、防犯、安全安心な地区
- ・二世帯、三世帯家庭が多い地域
- ・地域福祉のリーダーシップが五十公野であつて欲しい
- ・子どもが多く子どもの声が聞こえる地域
- ・協力し合える暮らし
- ・除雪で協力できる地域
- ・子どもがもっと多くなつたらいい
- ・子どもの明るいあいさつがある地域
- ・町内活性化、若者の定着
- ・お互いにあいさつがある地域
- ・小学生に声かけができる
- ・出会ったらあいさつのできる地域
- ・支え合える自治会であつて欲しい
- ・道路の整備を進め若者の転出を防ぐ
- ・コミュニケーションの活発化
- ・自家用車がなくても移動に困らない地域
- ・気兼ねなしに町内活動に参加できる
- ・趣味のサークルの会を多くつくる
- ・自然を活用できる地域
- ・安全・安心に生活できる環境
- ・一人ぼっちのいない地域
- ・最小限の個人情報共有をする
- ・環境整備に関心を持つ
- ・蛍が飛ぶ団地
- ・新しく引っ越してきた方も地域の行事に参加して欲しい
- ・町内全体で子育てできる
- ・近すぎず離れすぎない人間関係のある地域
- ・90歳以上でピンピンころりの地域（平均年令より上!）
- ・自然と共助ができる町内
- ・気軽にあいさつのできるような町内になって欲しい
- ・お正月や町内の行事の集まりが少ないので増えると良い
- ・集落の行事に多くの人に参加してコミュニケーションが取れたら良いと思う
- ・町内の戸数が増えて欲しい
- ・町内会みんな仲良く、元気で明るい会話ができる地域
- ・お隣さんの顔、声かけできること「向こう三軒両隣」
- ・地域に「お茶の間サロン」のような場所が欲しい
- ・どんな行事にも全員が参加するようになったらいい
- ・町内の戸数が少なくなると良い（顔が見え、つながりが持てる程度）





4 私たちにできること

- ・消えている街灯の設置ができる
- ・農道を市道に格上げしガードレールを行政に頼む
- ・高齢者（介護者）の買物などの協力、支援
- ・あいさつができる
- ・お年寄り等に話しかける
- ・自分からあいさつをする
- ・近所の見守り、声かけ
- ・町内の住民に心を配るよう心がける
- ・一人暮らしの人と会話ができること
- ・町内の人と身近な会話ができる
- ・時間的に余裕のある人が手伝い、生きがいとする（お互いの）ボランティア活動
- ・若い人に遠慮せず協力を求める
- ・ごみ捨てができる
- ・公会堂を利用して地区のコミュニケーションをとる
- ・空き家の草刈り
- ・ごみ出しの手伝い
- ・登校時の見守り
- ・ごみステーション周辺の清掃
- ・ニートらしき人に声かけをしたい
- ・おせっかいになろう
- ・公園に花を植える
- ・あいさつ運動
- ・声かけ、あいさつをする
- ・歩道でのすれ違い時の声かけ
- ・声かけ運動
- ・一人暮らしの高齢者に声かけをする
- ・隣同士の安否確認
- ・安心して生活できる手助け
- ・地域でできる買物は地域で買う
- ・地域内の環境整備
- ・地域安全パトロール（定期的に実施中）
- ・ワンワン・パトロールを実施し、子どもに声をかける
- ・子ども達が安心して登下校や外遊び等ができるように定期巡回、巡視活動をする
- ・近所の見守り
- ・高齢者世帯の見守り、話しをする
- ・地域の行事に参加する
- ・子ども、大人でのサイクリングの集い
- ・地域慣習の簡素化
- ・助け合い支え合い
- ・町内活動にできるだけ率先し協力する
- ・人手のいる人を助ける
- ・進んであいさつをする
- ・自分から声をかける
- ・自分に可能なことは協力的に行動しようと思う
- ・今以上に地域に貢献する！
- ・まずはこの場所へ、まじめに参加
- ・地域の子どもと高齢者がお互いを知っている
- ・道路の清掃
- ・歴史があるので紙芝居を作ってみる
- ・五十公野八景をみんなで学ぶ
- ・一人暮らしの人への手助け
- ・ウォーキングをして親睦を図る
- ・行事に参加の声かけ
- ・地区の誰もがあいさつができる
- ・あいさつはもちろん、声かけをする
- ・知らない人にも大きな声であいさつ
- ・いつもニコニコ元気なあいさつ
- ・子ども達、高齢者の声が聞こえる見守り隊をつくる
- ・自主防災組織を作り、各自一人ひとりが自覚して協力するような自治会にしたい
- ・一人暮らしの人のごみ出し
- ・井戸端会議を開く
- ・場所があれば集まりたい
- ・町内活動を活発にして参加をする
- ・地域のパトロールを大いにやりたい
- ・地区内をパトロールする
- ・地元の資源をもっとPRする
- ・声かけ推進、情報の提供を文書や口頭等で行なっていく
- ・おすそ分けできるような町内でいたい
- ・近所同士のつながりを深くしたい
- ・行事計画で、いざ有事の時の迅速な助け合い！
- ・お寺、神社歴史巡り等のイベントを開催する
- ・身近な所に子育て支援センターをつくる
- ・高齢者を子育て支援に活かす





6 参考資料

「新発田市地域福祉（活動）計画」の基本理念と体系

1 基本理念

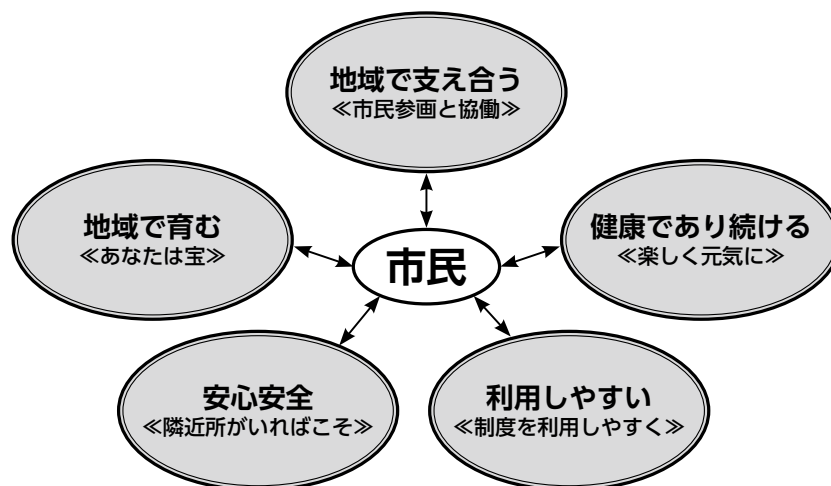
新発田市に暮らす子どもや若者から高齢者までの誰もが、新発田市の歴史と風土を大切に、新発田市民であることを誇りに思う新たな福祉の地域づくりをめざし、新発田市地域福祉（活動）計画の基本理念を次のものとします。

～新発田市地域福祉（活動）計画の基本理念～

すべての市民が住みなれた地域とともに支え合い
安心して暮らせる福祉の地域づくり

※「出来るものならば、ずっと育ってきた地域で自立して生きていきたい。」 だれもが望む幸せとは、このような当たり前のことではないでしょうか。

地域福祉（活動）計画は、顔の見える一定の地域を面として、「地域の市民力」「地域の資源力」「行政力」という3つの力を活かし、地域に住んでいる住民や地域で活動している民間団体や事業所が、社会生活を送るうえでお互いに支え合うというわかりやすい仕組みを、行政との協働により住民自ら創り、自ら地域の実態に即した活動を展開するためのものです。そのためには、「地域のことは地域で」（下図参照）を基本として、地域に暮らすだれもが笑顔の中に生まれ、自分らしく健康で自立した生活を送り、生きること喜びを見出していける地域社会の実現を目指します。



新発田市地域福祉（活動）計画は、地域福祉をより効果的に推進するため、市が策定する「地域福祉計画」と社会福祉協議会が住民とともに策定する「地域福祉活動計画」を一体化して策定したものです。新発田市及び新発田市社会福祉協議会のホームページに掲載されております。

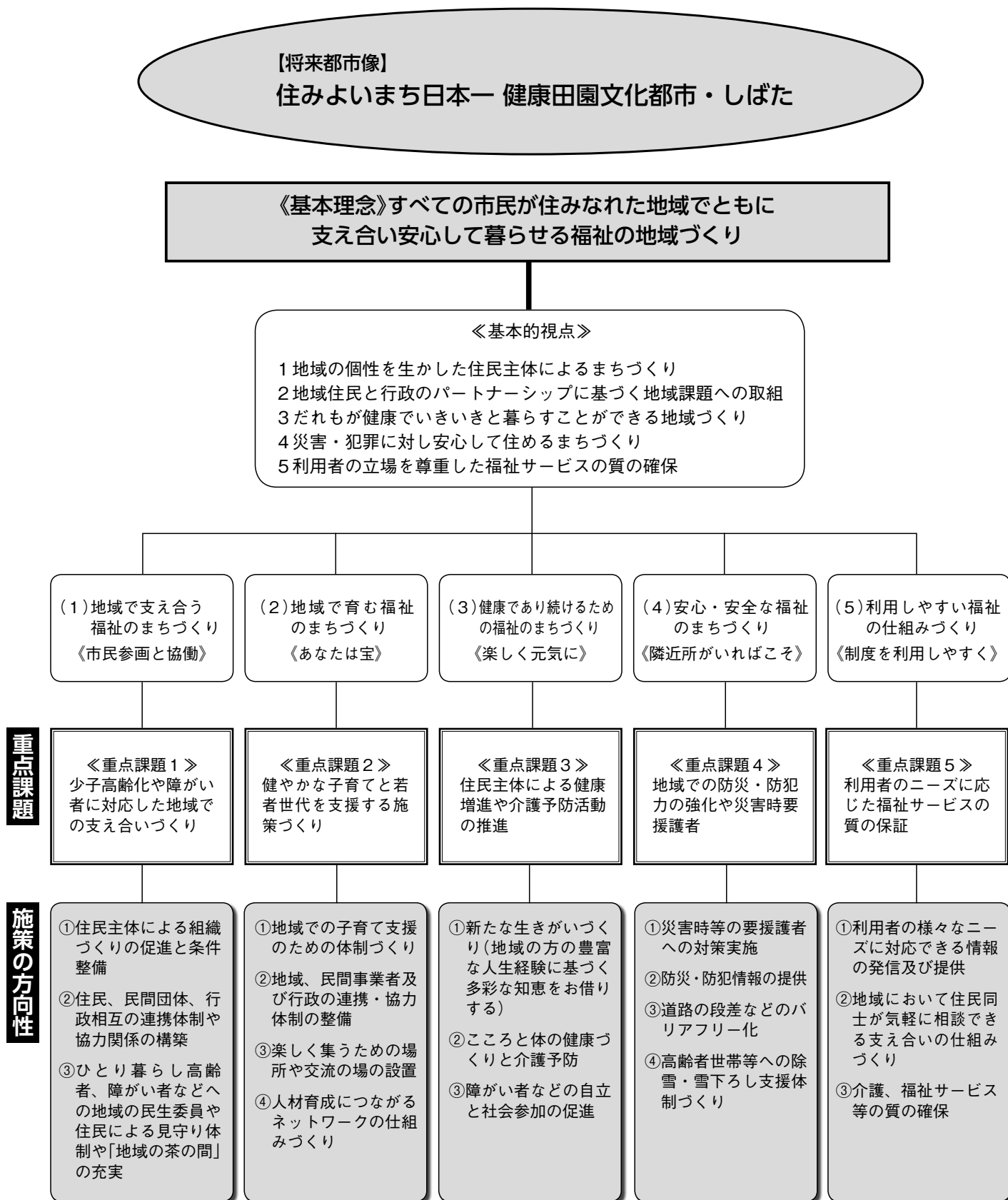
問合せ先：新発田市社会福祉課
Tel 22-3101

新発田市社会福祉協議会
Tel 23-1000



2 計画の体系

新発田市は、以下の基本理念に基づき、それぞれの重点課題について、施策を実施しながら計画の推進に取り組んでいきます。



五十公野地区福祉懇談会

回覧

第1号 | 平成27年11月2日

誰もが住み慣れた 地域で安心して 生活を送るために

地域の人と人とのつながりを大切にし、お互いに助けたり助けられたりする関係やその仕組みづくりを目指して



第1回五十公野地区福祉懇談会

日時 平成27年10月8日(木)
会場 老人福祉センター 金蘭荘
参加者 住民55名
市・社協・包括18名

- ①開会挨拶
五十公野区長 仲川会長
- ②趣旨説明
新発田市 社会福祉課
- ③勉強会
新発田市社会福祉協議会
- ④グループワーク
「魅力あふれる五十公野地区を目指して」
- ⑤閉会挨拶
五十公野区長 大竹副会長

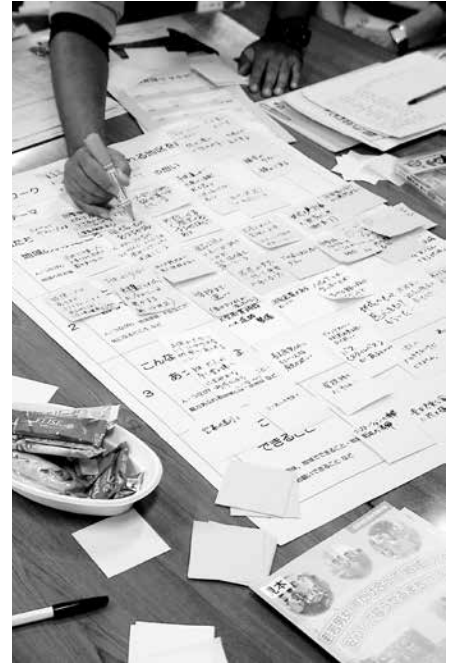
福祉活動計画の理解を深め より顔の見える関係に

これからのまちづくりは、子どもから高齢者まで住民の誰もが住み慣れた地域の中で、心豊かに安心して暮らせるような仕組みをつくり、それを持続させていくことが求められています。

そのためには、さまざまな生活課題について住民一人ひとりの努力(自助)、住民同士の相互扶助(共助)、公的

な制度(公助)の連携によって解決していこうとする取組が必要です。

五十公野地区福祉懇談会では、住民や関係団体、社会福祉協議会、行政が、福祉懇談会を通じて、地域の良いところや課題などを共有しながら、住民の行動計画である「五十公野地区福祉活動計画」の策定を目指しています。



関心から気づきへ 気づきから共感へ 共感から地域の支え合いへ

“五十公野地区福祉懇談会”の会場には、住民55名の方々からご参加いただき、市職員8名、社会福祉協議会職員7名、南地域包括支援センター職員3名と一緒に「五十公野地区福祉活動計画」の策定に向けて、計画についての勉強会やグループワークを行いました。

勉強会では、「地域の福祉課題に気づき、伝える仕組みづくり」をテーマに地域福祉計画とは何か、五十公野地域における地区福祉活動計画の持つ意義などの理解を深めました。

また、グループワークでは、顔顔の見える関係づくりを目指し、グループごとに「私たち地域のいいところ」「身近なところで困っていること」「こんな地域であつたらいいな」「私たちにできること」をテーマに話し合いながら参加者のつながりを深めました。

第2回の福祉懇談会では、魅力あふれる五十公野地区を目指して、第1回のグループワークで話し合われた内容を振り返りながら、意見やアイデアを整理し、これからの五十公野地区の基本目標や今後の展望を話し合います。



第2回 五十公野地区福祉懇談会

日時 平成27年11月12日(木)

18時30分～20時30分

会場 老人福祉センター 金蘭荘

発行 五十公野区長会 新発田市 新発田市社会福祉協議会
編集 新発田市社会福祉協議会 地域福祉課

TEL 23-1000 FAX 26-3300

五十公野地区福祉懇談会

第2号 | 平成27年12月1日

回 覧

**地域のすべての人が
自分らしく安心して暮ら
していける地域を目指して**

互いに支え合い、一人ひとりが自分たちのできる事を考え、地域福祉の基本的な考え方に基づいて、主体的に参加・協働する地域に向けて



第2回五十公野地区福祉懇談会

日 時 平成27年11月12日(木)
会 場 老人福祉センター 金蘭荘
参加者 住民52名
市・社協・包括15名

- ①開会挨拶
五十公野区長会 仲川会長
- ②グループワーク
・ 前回の振り返り及びまとめ
・ 地区の現状と課題の整理
・ 基本目標の検討
・ グループ発表
- ③閉会挨拶
五十公野区長会 大竹副会長

ほっとけないの「気づき」を 伝える仕組みづくり

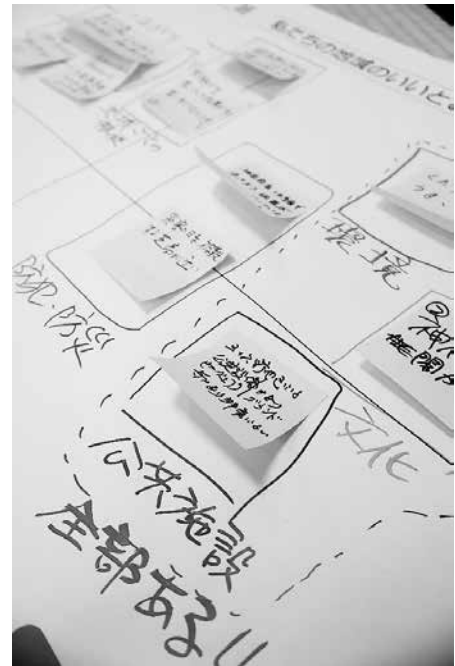
核家族化や少子高齢化によって「向こう三軒両隣」のような日本の古きよき伝統文化が姿を消しつつあります。

その結果、家族や地域とのつながりのカタチが変化し、地域の伝統文化や郷土愛も薄れ、地域資源が豊かであるにも関わらず継承が困難な状況になっています。

そのため“五十公野地区福祉懇談会”では、より多くの

住民に地域への関心を持ってもらい、顔の見える地域づくりを基盤に「気づき」を伝える仕組みを目指します。

第2回懇談会では、グループごとに第1回懇談会で話し合われた4つのテーマ（地域の魅力・地域課題・これからの地域像・これから取り組めること）の内容を振り返りながら意見などを整理し、会場全体で共有しました。



地域の魅力を再認識し 地域の課題を共有するために

第2回五十公野地区福祉懇談会では、住民52名の方々からご参加いただき、市職員8名、社会福祉協議会職員6名、南地域包括支援センター職員1名と一緒に「五十公野地区福祉活動計画」の策定に向けて、グループワークを行いました。

グループワークでは、第1回懇談会で出された地域にある資源や課題、地域の現状を整理し、今後さらに住み良い地域に向けて、これからの地域像を参加者全員で共有しました。

グループワークでは、五十公野地区は「団結力がある」「歴史のあ

る地域」「高齢者所帯が多い」「空屋が多くなってきている」「共助とプライバシーのバランスが難しい」などの意見や「地域のお茶の間があるとよい」「コミュニケーションの活発化を図りたい」「気軽に挨拶のできる地域になってほしい」など活発な意見交換がありました。

次回は、魅力あふれる五十公野地区を目指して、第2回懇談会で話し合われた内容を振り返りながら意見やアイデアを整理し、これからの地区の展望を話し合い、五十公野地区福祉活動計画の基本目標を検討します。



第3回 五十公野地区福祉懇談会

日時 平成27年12月10日(木)

18時30分～20時30分

会場 老人福祉センター 金蘭荘

発行
編集

五十公野区長会
新発田市社会福祉協議会 地域福祉課

新発田市

新発田市社会福祉協議会

TEL 23-1000 FAX 26-3300

五十公野地区福祉懇談会

回覧

第3号 | 平成28年1月5日

地域のSOSを 見逃さない つながりのある 地域をつくる

地域のつながりを実感できるように
身近な地域で福祉活動を活性化し、
新しい地域づくりを目指します



第3回五十公野地区福祉懇談会

日時 平成27年12月10日(木)
会場 老人福祉センター 金蘭荘
参加者 住民50名
市・社協13名

- ①開会挨拶
五十公野区長会 仲川会長
- ②グループワーク
 - ・ 前回の振り返り及びまとめ
 - ・ 基本目標の検討
 - ・ スローガンの検討
 - ・ グループ発表
- ③閉会挨拶
五十公野区長会 大竹副会長

これからの地域を話し合い 誰もが参加できる取組を目指して

ご近所の助け合いによって支えられてきた人々の暮らしが、生活の孤立化、複合的な課題を抱える世帯の増加、地域での連帯感の希薄化などがすすみ、制度の谷間にあっただけで対応できない課題も多く生じてきています。

五十公野地区福祉懇談会では、地域の住民が主体となって地域での支え合いをすすめる取組を活性化し、住み慣れた地域でこれまでの社会関係

を維持しながら、誰もが生きがいを持ち、地域の社会資源として役割を発揮する地域づくりに向けて力を合わせる必要があります。

第3回懇談会では、第2回のグループワークで話し合われた内容を振り返りながら、整理したキーワードをもとに、五十公野地区福祉活動計画の基本目標やスローガンを検討しました。



人と人の「つながり」を地域に広げる あたたかい地域づくりを推進するために

第3回五十公野地区福祉懇談会では、住民50名の方々からご参加いただき、市職員8名、社会福祉協議会職員5名と一緒に「五十公野地区福祉活動計画」の策定に向けて、それぞれの立場を越え、参加者全員で第2回懇談会にて話し合われた内容をもとに、計画の基本目標や具体的な実施項目、スローガンを検討しました。

「歴史を守る 伝える 広める」「ハートフルな相互扶助」などの基本目標や、「町内のパトロール」「世代間交流を図るため、紙

芝居作りを行う」「サイクリングで歴史探訪」などの目標に向けた具体的な取組を話し合いました。

また、スローガンの候補として「熱烈ないじみの愛～古都のいじみの～」 「老若男女、安心安全に暮せる地域を目指そう」などが提案されました。

今後、編集委員を中心に、安心して暮らせる地域づくりを目指して、懇談会で話し合われた内容を集約し、地域の助け合い・支え合いを基盤にした“五十公野地区福祉活動計画”を策定いたします。



第1回 五十公野地区編集委員会

日時 平成28年1月14日(木)

18時30分～20時30分

会場 五十公野コミュニティセンター

発行
編集

五十公野区長会
新発田市社会福祉協議会 地域福祉課

新発田市

新発田市社会福祉協議会

TEL 23-1000 FAX 26-3300

五十公野地区 編集委員会		
No	所属	氏名
1	五十公野区長会	仲川 重平
2	五十公野区長会	大竹 茂治
3	五十公野区長会	井又 康雄
4	五十公野区長会	小野 隆
5	五十公野区長会	木下 文俊
6	五十公野区長会	中川 勝
7	五十公野区長会	加藤 研一
8	五十公野区長会	日下部 政衛
9	七軒町	大橋 京子
10	杉原町内会	廣野 千代和
11	杉西手	斉藤 修三
12	杉西手	佐藤 孝子
13	第四地区民生委員児童委員協議会	関根 美津子
14	第四地区民生委員児童委員協議会	加藤 圭子

～みんなでつながる福祉のまちづくり～

編集：五十公野地区編集委員会・五十公野区長会
新発田市・社会福祉法人新発田市社会福祉協議会

発行：平成28年3月

新発田市

〒957-8686 新発田市中央町4丁目10番4号

社会福祉法人新発田市社会福祉協議会

〒957-0054 新発田市本町4丁目16番83号

便利帳

高齢者に関すること

内容	問合せ先	電話番号
高齢者全般及び介護保険制度に関すること	新発田南地域包括支援センター（五十公野地区担当）	24-1111
	新発田市 高齢福祉課	22-3101
後期高齢者医療制度に関すること	新発田市 保険年金課	22-3101

障がいに関すること

内容	問合せ先	電話番号
障がい全般に関すること	緑風園相談室	26-8822
	こころの相談支援ウィング	28-3355
	新発田市 社会福祉課	22-3101
障がい者の就業・生活に関すること	障がい者就業・生活支援センターアシスト	23-1987

子どもに関すること

内容	問合せ先	電話番号
児童や子育て全般に関すること	新発田市 こども課	22-3101
	新発田児童相談所	26-9131
保育園	五十公野保育園	22-6826
	天ノ原保育園	22-3622
小学校	五十公野小学校	22-3641
中学校	東中学校	22-3824

健康に関すること

内容	問合せ先	電話番号
休日・夜間の急病に関すること	新発田地区救急診療所	23-8350
健康全般に関すること	新発田市 健康推進課	22-3101
心の健康や悩みの相談に関すること	新発田市 健康推進課	22-3101
	新発田保健所	26-9133
	こころの相談支援ウィング	28-3355

その他

内容	問合せ先	電話番号
仕事や生活の困りごとに関すること	新発田市 社会福祉課	22-3101
生活保護に関すること		
生活福祉資金に関すること	新発田市社会福祉協議会	23-1000
ボランティアに関すること		
ニート・ひきこもりの社会参加に関すること	下越地域若者サポートステーション	28-8735
ニート・ひきこもりの就労相談に関すること		
地域の活動交流施設	五十公野コミュニティセンター	26-8139
地域の治安に関すること	新発田警察署 五十公野駐在所	24-7201

心配ごと、悩みごとをひとりで抱えていませんか？

民生委員児童委員・主任児童委員は地域の身近な相談相手です。相談内容に応じて適切な関係機関へつなぎます。